



## SS国語探究Ⅰ 「水俣フィールドワーク」

8月2日(火)、グローバル探究コースを対象としたSSH学校設定科目「SS国語探究Ⅰ」の授業の一環として、1年2組25名が水俣でフィールドワークを行いました。この授業では、高度経済成長期に顕在した熊本県の公害である水俣病を、科学技術とSDGsの視点から捉え、1年間かけて深く学んでいきます。

今回のフィールドワークでは1学期に本や映像を通して学んだことをより深く掘り下げるとともに、「企業の加害責任」「科学者や行政の対応の問題点」「患者さんへの補償問題」「地域の産業」「医療や福祉の課題」等、水俣病の持つ多面性を肌で実感することができました。

【エコパーク水俣・親水護岸】案内人：吉永利夫様のお話。背景にあるのは美しい海と恋路島。この海にはかつて仕切り網が設けられていました。総額485億をかけて作られたこの埋め立て地の下には水銀に汚染されたヘドロと共に、ドラム缶3000個分の魚たちが眠っています。



【語り部講話：川本愛一郎様】

川本さんのお父様、川本輝夫さんは、映画「MINAMATA」でチッソとの交渉や裁判で活躍するヤマザキのモデルとなった人です。輝夫さんは当時、沈黙を強いられていた滞在患者の家を訪ねて声を拾い上げ、水俣病患者救済の運動の先頭に立ってきました。

〔生徒の感想より〕

「川本さんのお父様がチッソ工場に座り込んでまで話を聞いてもらおうとしたのに、話を聞くどころか、川本さんのお父様を殴って蹴って、たくさんの怪我を負わせました。チッソや国や県は(水銀流出を)放置していたとばかり思っていたけれど、まさか暴行まで加えているとは思わなくて、本当に驚いたし、聞いてて胸が痛かったです。資料館で埋め立て地の話や今も水俣病で苦しんでいる人たちがいる話を聞いて、水俣病の問題はまだ続いているんだなと痛感しました」

【水俣病資料館見学】水俣病裁判の複雑な問題、埋め立て地の下に眠る水銀を今後どのように処置していくべきか、改めて考えさせられました。

〔生徒の感想より〕「まだまだ課題があること、政治の対応が(東京と地方で)目に見えて違うことにびっくりした。たくさんの人、時間、お金が費やされて今の水俣があると感じた。”ここで終わり”ではなく、これから自分ができることを考えて行動しようと思った」





【班別フィールドワーク】 午後は3つの班に分かれ、研修を行いました。

### 1班 「水俣病事件の科学的及び社会科学的検証」

講師：熊本県環境センター館長 篠原亮太様

水俣病がチッソ工場の排水で汚染された魚介類を食べることで起きた、食物連鎖による重金属中毒であることはよく知られています。篠原さんの講話では、メチル水銀生成反応やなぜ、人の身体に取り込まれたのかを、化学式等を用いて分かりやすく説明されました。また、問題が拡大した背景に潜む、経済問題、貧困問題、都市と地方の格差問題、法の問題等、水俣病を考える上でのさまざまな視座を教えてくださいました。



2班「患者さんの暮らしと今も続く水俣病裁判」 講師：谷 由布様 ゲスト：坂本しのぶ様

ヘルパーとして長年、患者さんたちの暮らしを支える谷さんと、胎児性水俣病患者である坂本さんのお話を伺いました。

3班「水俣のお茶農家として」 講師：桜野園 松本 和也様

松本さんは水俣市で和紅茶を生産されています。ここで育てられているお茶は和紅茶の他、緑茶、ほうじ茶など現在6種類。1990年よりすべてのお茶を無農薬・無化学肥料で栽培しており、2005年からは肥料・農薬を一切使わない自然栽培にも取り組まれています。

【水俣病関連地フィールドワーク】最後に、吉永さんの案内の元、水俣病関連地を訪問しました。その一つが坪谷です。1956年5月1日、一番最初の水俣病患者がこの小さな美しい岬から出ました。今でも24時間の介護を受けながらここで生活されています。

生徒の感想

「写真では白黒の風景しか見れないので、リアルの、色のついた鮮やかな実物とはとても同じ世界とは思えませんでした。それと同時に、白黒の写真の中で起こっていたことは、この現実の世界で起こっていたことだったんだと、当たり前のことを自覚させられました」

「中学までとは違い、水俣病の裏側まで学べました。今の水俣にもまだ課題は山積していて、水銀のことや裁判のことなど、大変だと思います。水俣に対する差別や、水俣病に対する差別も偏見をなくすためにも、まずはしっかり学んで、水俣・そして日本がより安心して暮らせるようにすべきだと思います。坂本しのぶさんが言われた“色々なことに対して自分も関係あると思って考える”ことをしていこうと思います」



このフィールドワークは9月はじめに報告会を行う予定です。

9月16日には水銀フリー講座、また9月30日からは熊本学園大学水俣学研究センターの先生方をお招きして5回の連続講座を実施します。一つの問題を1年間かけて問題を多面的に深く掘り下げることで、課題を粘り強く考える力を身につけていきます。